

あとかき

1995年に私は滋賀県琵琶湖研究所の研究者として採用され東京から滋賀に来た。その前年の1994年は琵琶湖の水位が9月15日にマイナス123cmとなる大渇水が発生し、堅田では浮御堂が干上がり、赤野井湾ではアオコが大量発生するなどの問題が起きた。そのようなことが背景にあったのだと思うが、私は赴任して間もなく当時の中村正久所長の指示で赤野井湾をフィールドとして、汚濁負荷量調査を始めることになった。その後、国、滋賀県の関係行政部局でも様々な水質保全対策事業がこの地域で進められた。17年間あまり赤野井湾周辺の変化を見てきて感じることは、汚濁負荷削減対策だけでは水環境の改善を実感できるようになることは難しいということである。水辺の再自然化や湧水を含めた水路網の復活など、生き物の視点から環境をみて、水環境を改善していくことが大事ではないかと感じるこの頃である。なお、本冊子をつくる際に職場の同僚である東善広氏には航空写真の合成や資料提供などご協力いただいた。ここに記して謝意を表したい。

(公社)日本水環境学会関西支部川部会 / 大久保 卓也

参考文献

- ・滋賀県琵琶湖研究所(2002) 湖内現象を考慮したノンポイント負荷削減対策の検討、滋賀県琵琶湖研究所プロジェクト研究報告, No07-A01, 198pp.
- ・琵琶湖水質保全対策行動計画推進協議会(1998) 琵琶湖水質保全対策行動計画, 92pp.(注:計画の策定は1997年10月)
- ・守山市誌編さん委員会編集(1996) 守山市誌, 自然編, 661pp, ぎょうせい.
- ・守山市誌編さん委員会編集(2001) 守山市誌, 地理編, 713pp, ぎょうせい.
- ・守山市誌編さん委員会編集(2006) 守山市誌, 歴史編, 645pp, ぎょうせい.
- ・国土交通省琵琶湖河川事務所ホームページ <http://www.biwakokasen.go.jp/>
- ・滋賀県観光情報ホームページ <http://www.biwako-visitors.jp/search/spot.php?cat=all&act=frm>
- ・滋賀県琵琶湖環境科学研究センターホームページ <http://www.lberi.jp/root/jp/bkjhindex.htm>
- ・守山市観光情報ホームページ <http://www.city.moriyama.lg.jp/index.shtml>
- ・守山市観光物産協会ホームページ <http://www.moriyamamamori.jp/>

既刊の紹介

- ・源流を行く 編 『名張川』(2013)
- ・みやびな川 編 『白川』(2010) 『鴨川・明神川』(2012) 『琵琶湖疏水』(2013)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010) 『保津川・桂川』(2011) 『茶川』(2011) 『猪名川』(2013)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011) 『恩智川・生駒の川』(2012) 『中河内の川』(2013)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
〈企画編集〉(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～ 〈おうみの川編〉

赤野井湾と流入河川 (Akanoiwan・Ryunyukasen)

〔発行〕平成25年3月

〔発行者〕財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)
TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036
<ホームページ> <http://www.byq.or.jp/>
* 散策ブックはホームページ上で閲覧することができます *
©BYQ, 2013 Printed in Japan

「 飲める水 遊べる水辺 次世代に 」

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～

おうみの川 編

赤野井湾と流入河川

(Akanoiwan・Ryunyukasen)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(社)近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、琵琶湖南湖の東岸に位置する赤野井湾とその周辺の流入河川を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

1 赤野井湾と流入河川の概要

今回は、近江の川として赤野井湾とその流入河川について紹介する。赤野井湾を紹介する前に、まず、赤野井湾の母体である琵琶湖についてその概況を説明しておきたい。琵琶湖は淀川の最上流部に位置する湖で、日本では面積、貯水量ともに最大の湖である(面積670km²、貯水量27.5km³、平均水深41m、周囲延長235km)。守山と堅田の間に架かる琵琶湖大橋を境に、北側を北湖(面積618km²、貯水量27.3km³)、南側を南湖(面積52km²、貯水量0.2km³)と呼んでいる。

琵琶湖は、地殻変動でできた構造盆地の底に水を湛えた湖で、約400万年前に現在の三重県伊賀市のあたりに誕生したと言われている。これを古琵琶湖と呼び、その後、古琵琶湖は移動しながら大きさ・形を変え、約43万年前に現在の琵琶湖になったと言われている。10万年以上存続している古い湖は「古代湖」と呼ばれる

が、琵琶湖は、バイカル湖(ロシア)、タンガニーカ湖(アフリカ)などとともに世界で20ほどしかない古代湖の一つである。

今回紹介する赤野井湾は、琵琶湖南湖の東岸に位置する内湾(面積1.4km²、水深約2m)である。赤野井湾は琵琶湖の中では比較的水質が悪い水域で、1994年の渇水時には、アオコが大量に発生し問題となった。一方、赤野井湾に流入する河川は、元々は野洲川沿いの伏流水を起源にした小さな河川が多く、流入する汚濁物質の量が特に多いわけではない。赤野井湾は地形的に閉鎖性が強く水が停滞しやすいため、湾内で植物プランクトンが増殖しやすい。それが水質が悪くなる第一の原因である。赤野井湾およびその周辺水域では、国および滋賀県によって水質保全対策事業が積極的に進められており、水質保全対策事業の各種事例が豊富にみられる。本冊子で

は、それらの対策事業の事例も示しながら赤野井湾とその周辺水域について紹介したい。



赤野井湾と流入河川流域図



目次

ねらい・目次	
赤野井湾と流入河川の概要	02
赤野井湾周辺の地形変化	03
コラム1 赤野井湾と流入河川の水質変化	04
赤野井湾集水域の水環境	05
コラム2 赤野井湾での浚渫事業	06
コラム3 木浜地区での循環灌漑	07
赤野井湾北部ゾーン	08
赤野井湾南部ゾーン	12
コラム4 赤野井湾でのNPO活動	13

CONTENTS

2 赤野井湾周辺の地形変化

赤野井湾集水域およびその周辺の土地は、もともとは野洲川の沖積作用によってつくられた三角州と扇状地である。赤野井湾周辺の地形は、第二次世界大戦後に2つの大規模な土木工事によって大きく変化してきた。一つは、野洲川放水路の建設とそれに伴う野洲川北流と南流の消滅である。もう一つは、木浜地先での埋立工事である。

1947年と2003年の写真を比較してみるとその変化がよくわかる。野洲川の流路変更によって赤野井湾集水域の野洲川南流周辺に存在していた多くの湧水が枯渇したと



野洲川（服部大橋から上流を望む）

言われている。また、赤野井湾北側の木浜地先の埋め立てによって赤野井湾の閉鎖性が強まった可能性がある。

野洲川放水路の建設は1958年に調査が開始され、1971年に工事開始、1979年に

完成という長期工事であった。野洲川は、以前は河口から7km程度上流で北流と南流の2つに分かれ、その下流の川幅は北流、南流ともに狭く、曲がりくねり、河床の高い天井川であった。そのため、大雨に伴う洪水時には堤防が決壊しやすく、大水害が約10年に1回の頻度で発生していた。

そのような中、1953年の水害をきっかけに、1958年に国の大規模事業として野洲川河口部の改修が実施されることになった。それは北流と南流を改修するというものではなく、北流と南流の分岐地点からほぼ直線的に琵琶湖まで幅約330m、距離約8kmの新しい河川を築造するという大胆な改修工事であった。

赤野井湾北側の木浜地先では2カ所で埋立工事が行われた。1963～66年には野洲川南流南側の木浜地先で人工島(125ha)が築造された。また、これとほぼ同じ時期(1962～64年)に琵琶湖大橋が建造された。さらにその南の赤野井湾北側の木浜地先で、1967～71年にかけて一部埋立を含む農地の圃場整備事業が行われた。また、赤野井湾の南側の烏丸半島は、以前は「くの字型」をしており内側の水面で真珠の養殖が行われていたが、1990年頃から埋立と湖岸整備が行われ、現在は滋賀県立琵琶湖博物館と草津市立水生植物園が立地している。



1947年の航空写真
(出典：米軍撮影)



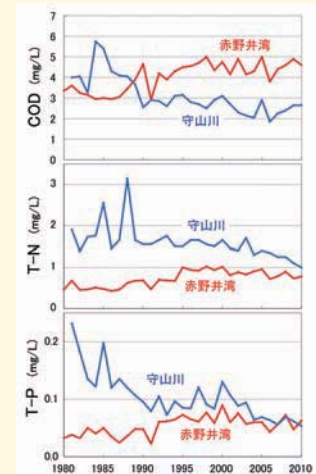
2003年の航空写真
(出典：国土交通省琵琶湖河川事務所撮影)

コラム① 赤野井湾と流入河川の水質変化

守山川の水質経年変化をみると化学的酸素要求量(COD)、全窒素(T-N)、全リン(T-P)ともに低下傾向にある。また、守山市の調査によると他の流入河川でも水質は改善傾向にあり、下水道整備等の汚濁負荷削減対策の効果が現れている。

一方、赤野井湾の水質は河川水質のように改善傾向はみられていない。この原因の1つとして、1994年夏季に大洪水があり、琵琶湖の水位が大きく低下したこと(最大で-123cm)をきっかけに、その年以降、水草が南湖で大量繁殖するようになったことが考えられる。赤野井湾湾口部でも水草が大量繁殖し、湾内外の水の交換が1994年以降悪くなった可能性がある。滋賀県琵琶湖研究所(現 琵琶湖環境科学研究センター)が赤野井湾で詳細調査した結果によると、赤野井湾の水質を決める因子としては、集水域からの

汚濁負荷だけでなく、①湾内外の水の交換、②底泥の巻き上げ、③底泥からの栄養塩溶出などが挙げられている。



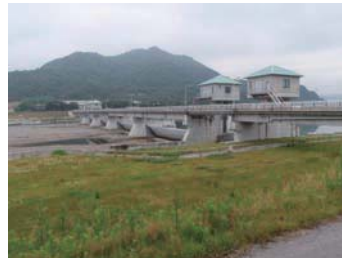
【赤野井湾と守山川の水質経年変化(1980~2010年)】

3 赤野井湾集水域の水環境

赤野井湾の集水域面積は約27km²で、水田を主体とした農地が6割、宅地、工場用地、道路等が4割を占める。赤野井湾には年間平均で約3m³/sの水が集水域から流入しているが、その水源は、45%が地下水、26%が野洲川の**石部頭首工**(12p地図参照)からの導水、20%が琵琶湖(赤野井湾)からポンプアップ(逆水灌漑)した水、9%が法竜川・石田川となっている。ここで、石部頭首工の「頭首工」とは、農業用水取水のために河川などに築造された取水堤などの施設のことであり、用水路の一番上流に設置される工作物(head works)であることからこの名称が付けられた。また、逆水灌漑の「逆水」とは、自然流下に対して琵琶湖から上流の農地にポンプアップすることからそのように呼ばれている。

流入河川の中では湾の北東部に流入する**法竜川**が流域面積、流量ともに最も大きい。法竜川の上流には、旭化成やチッソポリプロなどの工場があり、冷却水等の用途として地下水を汲み上げ、法竜川の支流に排水している。そのため、法竜川は渇水の時にも流量があまり減少しないと言われている。また、冬場は工場からの温排水の影響で周辺河川に比べやや高い水温になっている。

法竜川の南側に、**三反田川**、**天神川**、**金田井川**、**守山川**、**新守山川**、**山賀川**、**塚川**があり、新守山川を除くとどれも川幅が10m以下の小さな河川である。新守山川は、下水道整備に伴い守山市、栗東市の都市域から降雨時に流出する雨水を排出する河川として改修され、川幅は他の河川に比べ広がっている。しかし、晴天時の流量は天神川よりも小さい場合が多い(0.1~0.2m³/s程



石部頭首工



守山南部地区の逆水灌漑施設



法竜川



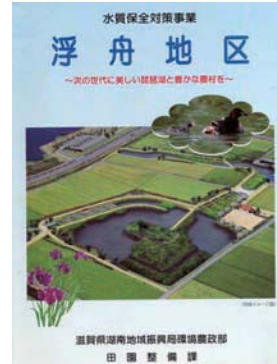
守山川河口の植生浄化池と案内板



守山川河口の降雨時流出水の一時的貯留池



天神川河口の降雨時流出水の一時的貯留池



浮舟地区の水質保全対策事業のパンフレット
(志那中内湖の鳥瞰図が表紙になっている)

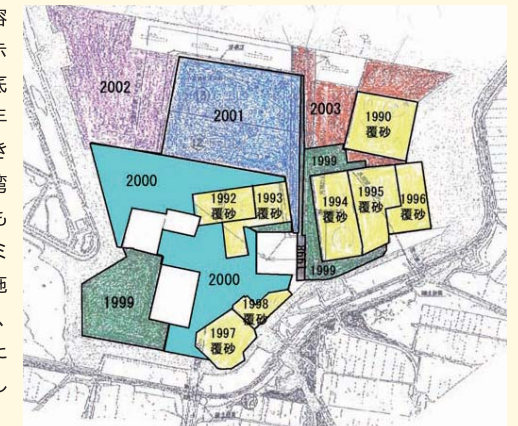
度)。守山川には、滋賀県の河川水質モニタリング地点があるが、下水道整備に伴い流量が減少し、水田から排水が流入しない非灌漑期には、降雨時以外はほとんど流れがない状態になっている。

流入河川の水質は、集水域における下水道整備などの水質保全対策の推進により改善する傾向にある。一方、赤野井湾の水質は、河川水質のように改善する傾向はみられていない。このように流入河川の水質が良くなっても湖や湾内の水質が良くなる現象は閉鎖性水域ではしばしばみられ、底泥からの溶出など内部負荷の影響ではないかと言われている(コラム1参照)。このような状況の中、赤野井湾の水質を良くするためには湾内外の水の交換を促進することが求められるが、技術的に難しいのが現状である。

コラム② 赤野井湾での浚渫事業

赤野井湾では、底泥から湖水中に溶け出す窒素やリンを削減するために、赤野井湾内に堆積した汚濁の著しい湖底泥を除去する底泥浚渫事業が1990年から2003年にかけて毎年実施されてきた。しかし、湾内水質の改善効果は、湾口部の水草繁茂など他の要因の影響もありはつきりしていない。覆砂は、シジミを増やすことをねらって水産部局が実施してきたが、湾内は流れが停滞して、酸素の底層への供給が十分行かないためシジミを増やすことはなかなか難しいようである。

最近、湾奥部の烏丸半島寄りにあるハス群落が拡大し、それが冬季に枯死し、枯れたハスが周辺に流れ出し景観が悪化することが問題となっている。そのためハス群落の一部を刈り取る事業が行われている。



〔赤野井湾内の浚渫・覆砂区域(2003年時点)〕

(注) 年だけ示した区域は浚渫(30cm)した区域、覆砂と記入した区域は浚渫(30cm)した後に覆砂(20cm)をした区域。ただし、1990年の覆砂区域は覆砂のみ20cm実施している。滋賀県草津土木事務所資料から作図。

国、滋賀県、関係市町は、琵琶湖の中で特に汚濁の著しい赤野井湾、浮舟地区(12p地図参照)等の赤野井湾周辺水域の水質改善をめざし、1997年に「琵琶湖水質保全対策行動計画」を策定した。この計画に基づき、様々な水質保全対策事業が実施されている。事業例を挙げると、底泥からの窒素・リンの溶出量を削減するための底泥浚渫(コラム2参照)、降雨時初期に

河川から流出する汚濁物質を沈殿させる一時貯留池の造成、水生植物により水質を浄化する植生浄化池の造成などがある。また、農業排水の対策事業としては、木浜地区や山賀地区で実施されている循環灌漑(コラム3参照)、浮舟地区で実施されている内湖(志那中内湖)を利用した水質浄化、用水量を節水するための自動給水栓の設置などがある。



志那中内湖



志那中内湖に設置されている浮遊式水生植生帯



農業用水の自動給水栓

コラム③ 木浜地区での循環灌漑

赤野井湾北部の木浜地区では、農地からの汚濁負荷を削減するために「循環灌漑」が行われている。「循環灌漑」とは、農地(主に水田)から出てきた排水をポンプアップして再び用水として循環利用する灌漑システムである。京都大学の中村公人・濱武英らの研究チームが詳細な調査を行った結果、循環灌漑は中干し前の特に代かき・田植え期における流出負荷削減に貢献していることが明らかになり、従来の逆水灌漑時に比べて窒素、リンの琵琶湖への負荷量が約半分に軽減されたと推定している。



【幹線排水路】



【循環灌漑の全体像を示した案内板】



【南部浄化池】

4 赤野井湾北部ゾーン

琵琶湖大橋から湖岸道路を北側へ行くと左手に**第1なぎさ公園**がある。この公園では、1~2月に早咲きの菜の花が約12,000本程咲き、雪の残る比良山とのコントラストを楽しむことができる。また、この湖岸付近にはハマヒルガオの生息地がある。ハマヒルガオは海岸性の植物で、琵琶湖など淡水の場所に自生するものは少なく、貴重な存在となっている。公園の陸側に**ホテルラフォーレ琵琶湖**がある(プラネタリアム併設)。ホテルを過ぎて湖岸道路を北方向に進むと左手に**第2なぎさ公園**があり、遠浅の水泳場やキャンプ場が整備されている。

湖岸沿いにある舗装道路(通称 湖岸道路)は、水資源開発を主目的として実施された琵琶湖総合開発事業(1972~97年)によって建設された「湖岸堤」の上を走る管理用道路である。「湖岸堤」は、下流への水の供給や洪水防止のため、琵琶湖の水位をB.S.L.(Biwako Surface Level: 琵琶湖基準水位)-2.0~+1.4mの範囲で人為的に操作で



第1なぎさ公園の菜の花畑と比良山系遠望



なぎさ公園のハマヒルガオ



ホテルラフォーレ琵琶湖



きるようにするための「堤」である。大雨によって琵琶湖の水位が上昇して湖岸の土地が浸水する可能性がある時には、湖岸堤の一部の排水路の出口にある水門が閉められ、琵琶湖の水が陸側に逆流しないように設計されている。

ここで、B.S.L.とは、瀬田の唐橋近くにある鳥居川水位観測所(1874年開設)で決めたゼロ点(T.P.+84.371m、O.P.+85.614m; 大阪城天守閣とほぼ同じ高さ)を基準に水位を表した数字であり、水位ゼロが琵琶湖の標準的な水位という意味ではない。ゼロ点を決めた当時は、水位が常にプラスの数字になるように決められたが、その後、水位低下傾向が続き、現在では水位がマイナスになる時もあるようになった。

琵琶湖大橋から湖岸道路を南に向かい、木浜埋立地を南に進むと左手に佐川急便(株)の体育館や野球場がみえるが、その東側(裏側)に**佐川美術館**がある。1998年に同社の創立40周年を記念して開館した美術館である。この美術館には大きな水庭があり「水に浮かぶ美術館」と称される。日本画家の平山郁夫(1930-2009)、彫刻家の佐藤忠良(1912-2011)、陶芸家の15代樂吉左衛門(1949-)の展示館を設けている。建物と庭のデザイン(竹中工務店 設計)は高く評価されており、1998年グッドデザイン賞(施設部門)((公財)日本デザイン振興会)、2000年日本建築学会作品選奨など数々の受賞歴がある。

旧野洲川南流の河道には、**びわこ地球市民の森**がある。これは、野洲川放水路の完成により廃川となった河道の一部を「豊かな森」として再生するため、滋賀県と国土交通省が2000~2009年にかけて延長3.2km、総面積42.5haの土地を整備したものである。ここには**森づくりセンター**が設置され、市民参



第2なぎさ公園



湖岸道路の案内板



佐川美術館



びわこ地球市民の森



近江妙蓮公園のハス



西本願寺赤野井西別院



東本願寺赤野井東別院



大庄屋諏訪家屋敷



もりやま芦刈園



守山川河口から上流を望む

加による植樹活動が行われている。

法竜川上流の川田町には、**近江妙蓮公園**がある。ハスの品種の中で最古の品種と言われる**妙蓮**は、平安時代のはじめ、比叡山延暦寺の慈覚大師が唐から持ち帰ったと伝えられている。蕾のときは一つの花に見えるが、外側の花卉が開いたあとは一茎に2~12の花群が見られ、花びらは2,000~5,000枚にも達する。公園内にある**大日池**と妙蓮は、県の天然記念物に指定されている。大日池に隣接して瑞蓮池、展示資料館などが整備されている。妙蓮は守山市の市花にもなっており、花の見頃は7月下旬から8月上旬である。

天神川を上流に向かって進み浜街道を越えると**西本願寺赤野井西別院**と**東本願寺赤野井東別院**の2院がある。この2院は、本願寺派と真宗大谷派の別院となっている。1465年に延暦寺によって大谷本願寺が破壊され、**蓮如上人**(1415-99)は近江に逃れ、堅田、金森、赤野井などを拠点に真宗の布教に努めた。蓮如上人の布教活動によって金森や赤野井の周辺の人々はほとんどが本願寺門徒となり、このうち赤野井周辺の門徒が建立した道場が赤野井西別院のもとになった。江戸時代以降に東西の別院に分かれた。

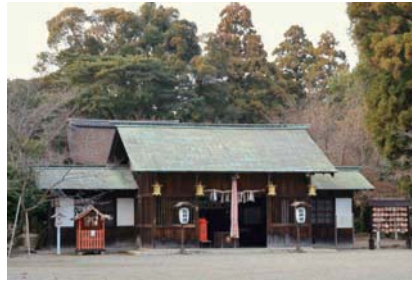
赤野井東別院の北側に守山市指定文化財の**大庄屋諏訪家屋敷**がある。諏訪家の歴史は、1340(暦応3)年に諏訪円忠が足利尊氏に命ぜられ、信州からこの地の地頭として赴任したことが始まりとされている。以降、諏訪氏は江戸時代には代官職を経て小津郷の大庄屋として活躍した。広大な屋敷内には母屋、客殿、茶室、土蔵、庭園がある。母屋は客殿を伴う珍しい構造で江戸時代中期に建てられた可能性がある。

守山川の河口にある**もりやま芦刈園**にはヨー

ロッパから集めた西洋あじさい50品種5,000本と日本あじさい50品種5,000本が植栽されている。その他にもバラ、ボタン、ショウブなども見られ、秋(10月頃)に咲く桜として、ジユウガツザクラもあり四季を通じて花が見られる。

守山川を上流に向かって歩いて行くと右手に鎮守の森がみえる。これが小津神社である。古代豪族の小津氏を祀ったのが始まりとされている。後に主神として宇迦乃御魂命うがのみたまのみことなどが祀られた。古くから、皇室や武門の崇敬が厚く、足利尊氏は南北朝の乱の際に神聖な境内への兵馬の乱入を固く禁じたと伝えられている。戦国時代に再建された本殿とそこにある木造の女神像は、国の重要文化財に指定されている。

赤野井湾南側の烏丸半島にある滋賀県立琵琶湖博物館は、訪れる人たちと博物館が双方向に交流できる「体感型」博物館として人気がある。湖と人間のよりよい共存関係をめざすためのきっかけをみつけてもらうことをテーマとしている。各展示コーナーでは「湖と人間」をテーマに、琵琶湖の誕生から現在までの生い立ちや、人や生き物とのかかわりについて学ぶことができる。また烏丸半島には、草津市立水生植物園みずの森があり、ロータス館ではハスやスイレンを中心に四季を通じて様々な水生植物が楽しめる。ここでは、仏教の三大聖樹(ムユウジュ、ボダイジュ、サラソウジュ)がみられ、日本で唯一本物のサラソウジュの花が見られる。この植物園には発電用の大型の風車が併設されており、周辺からよく見え、景観のシンボルとなっている。水生植物園の琵琶湖畔には日本でも有数の蓮の群生地がある。



小津神社



滋賀県立琵琶湖博物館



草津市立水生植物園みずの森



烏丸半島ハスの群生地と風車

(8~11ページ写真提供)
 ・(社)びわこビジターズビューロー:
 第2なぎさ公園、近江妙蓮公園のハス、烏丸半島ハスの群生地
 ・滋賀県:なぎさ公園のハマヒルガオ

5 赤野井湾南部ゾーン

赤野井湾集水域の守山は、戦前はホタルの名所として有名であった。「守山ボタル」の乱舞の様子が、日本で初めて書かれたホタルの本「学芸叢談一螢の話(渡瀬庄三郎著, 1902)」に次のように書かれている。「近江国守山、今宿地方は螢の沢山生ずる処で、夏向き、螢の沢山出る頃には、全く提灯は要らないさうである。それは、此辺の田圃道は、皆、小川に添うて居て、其の岸の草には螢が沢山居るから、其の光によって、道筋がはっきりと分つて居る、若しまた危険な所などが有って、路を良く知りたいと思つたら、杖で附近の叢をたゞけば、螢は一層光の度を強くするから、その辺が昼間のごとく明るなる、それで、此辺で夜歩くものは、提灯を用いる代に、一本の杖を持って歩くさうである」

守山市市民ホールの近くにあるホタルの森資料館では、ホタルの生態などに関する展示を見ることができる。

JR守山駅周辺には、江戸時代に京の隣



渡瀬庄三郎著
「螢の話」



ホタルの森資料館

の宿場としてにぎわっていた中山道守山宿があった。中山道は、江戸時代に徳川幕府が制定した五街道の一つで、江戸の日本橋を起点、板橋宿を第一宿として、武蔵・上野・信濃・美濃の各国を経て近江国守山宿まで67宿が定められた。「守山」の地名は、比叡山延暦寺の東の関門として、東門院が創建されたことに由来し、比叡山を守るという意味である。守山駅近くの旧中山道沿いには、江戸時代からあつ



た町屋を利用した**中山道街道文化交流館**がある。この交流館は、街道や宿場の情報を発信し、人々の交流の場として利用されている。

旧野洲川北流と南流の河道沿いには湧水場の跡がみられ、野洲川が天井川であったため湧水が豊富に湧き出していたことが伺える。地質の違いから野洲川の左岸に湧水が多く見られ、その例として、法竜川最上流部の**鳩の森公園**内に**矢島湧跡**がある。現地には「**矢島湧跡**」と刻まれた石柱がある。そこから流れる川を**矢島湧川**と呼んでいた。鳩の森公園内にはこの他に**江西湧跡**もある。「湧」を維持するためには池ざらえや川ざらえが定期的に必要なであった。湧川は他の村を通して引かれていたので、「湯のぼり」とよぶ維持清掃が毎年定日に村間での取り決めのもとに厳粛に行われていた。現在でもその習慣は、集落単位の水利組合や農業組合による川清掃や土地改良区の用排水調整委員会による河川の清掃活動として残っている。



中山道街道文化交流館



矢島湧跡



江西湧跡



円形分水工



三上山（近江富士）



御上神社



滋賀県希望が丘文化公園
(写真提供：(公財)滋賀県文化振興事業団)

守山駅東側の**浮気町**には古くから湧水が多く、その水は里中を巡っていた。晩秋から冬の間は、川面から立ち上る水蒸気が朝日に映えて、あたたかも紫雲が漂うような荘厳な里であったため「浮気」と名付けられたと言われている。現在は、この地区では湧水に替わる農業用水として、**石部頭首工**から野洲川の河川水が導水されており、吉身町には農業用水を正確に分配するための**円形分水工**がみられる。

赤野井湾から東方向をみるときれいな山型をした**三上山** (432m)をみる事ができる。形状が富士山に似ているため「**近江富士**」と呼ばれている。山の西側のふもとには**御上神社**がある。御上神社は、三上神社とも称される。三上山は、俵藤太の「ムカデ退治の伝説」で知られる。旧暦6月18日には山上祭が行われ、**神体山**信仰の姿を伝えている。本殿は国宝、拝殿・楼門・摂社若宮本殿・狛犬が国指定の重要文化財となっている。

三上山の北東方向のふもとは、**滋賀県希望が丘文化公園**がある。敷地面積が416haの広大な公園である。青少年宿泊研修所、多目的広場(敷地面積4.3ha)、ディスクゴルフコース等がある。

野洲川を上流に進み名神高速道路を越えたところに**石部頭首工**がある。野洲川では最大規模の頭首工で、ここで取水された水は守山市や草津市の農地に供給されている(灌漑受益面積2200ha)。取水量は4月下旬に最大となり約7m³/s、5月以降の灌漑期は約5m³/s、非灌漑期は約2m³/sである。

1954年に最初の頭首工が建設され、2002年に全面改修された。この頭首工の場所は、両サイドに山が迫り、河床が岩盤という地形・地質構造を持ち、取水堰を作るには最適の条件を備えていた。建設計画当初は、岩盤に密着させて表流水も伏流水も全量取水するという計画だったが、下流町村から伏流水の一部を流すように強力な請願があり、固定堰下の暗渠から伏流水の一部を流すことになった。このことは農業用水の取水量が減った反面、伏流水の源流が確保できたという安心感を下流の農民に与えた。

コラム 4 赤野井湾でのNPO活動

赤野井湾集水域では、1996年に設立されたNPO「**豊穡の郷赤野井流域協議会**」(2004年にNPO法人「**びわこ豊穡の郷**」に改組)が、河川水質調査や環境学習活動等、活発な活動を行ってきた。特に河川調査では赤野井湾流入河川の約100ヶ所で透視度計やバックテストを用いた調査を行い、水環境マップとして冊子にまとめている。内容はホームページ(<http://www.lake-biwa.net/akanoi/map/>)でも見ることができる。

この他に、埋立地の木浜と元の湖岸との間にある木浜内湖の環境保全をめざして活動をしているNPO法人「**木ノ浜内湖自然と環境を守る会**」などがある。木浜内湖では、底泥浚渫や水草の刈り取りなどの事業が滋賀県によ

て行われてきたが、赤野井湾と同様に閉鎖性が強いので、水質がなかなか良ならず試行錯誤しながら検討を続けている。



〔NPO法人「びわこ豊穡の郷」が作成した水環境マップの一例〕